

go to

村野藤吾の建築
目黒区総合庁舎

TOGO MURANO's ARCHITECTURE

vol. 4 アルミ鋳物の縦格子が包む外観



光を吸収するバルコニー。外光は、この縦格子とバルコニーを通してやさしい光に表情を変え、室内に差し込みます。

日本を代表する建築家・村野藤吾氏の作品の一つとして知られている総合庁舎の魅力を紹介していくシリーズ。

光を吸収するためのアルミ鋳物格子

総合庁舎で最も印象的なデザインの一つが、外壁の全面を覆うアルミ鋳物の縦格子。竣工時、周囲が住宅街であったため、外壁のデザインは光を反射するものではなく、建物全体を格子のバルコニーで覆うことで、光を吸収できる影の部分をつくらうと、村野は考えました。

屋上に視線を移すと、縦格子の先端が空に向かって伸びています。この縦格子は、約8,900ユニットで構築され、当時アルミ鋳物格子は大胆かつ斬新であり、日本初の試みでした。この曲線を使った縦格子のデザインからも、角を好まなかった村野の細やかなこだわりを見てとることができます。



建築家 村野藤吾氏

独自の作風で300を超える個性豊かな建築を設計し、1984年、93歳で亡くなるまで数々の賞を受賞した、日本を代表する近代建築の第一人者

目黒区総務課庁舎管理係
(☎5722-6107、FAX5722-9315)

防犯・防災クイズ

問題!

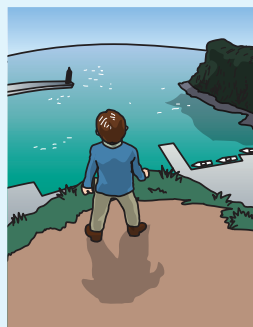
役立つ防犯・防災の知識をクイズで紹介。
いつもの備えを、もしものときの安心につなげよう。

海や海岸付近にいるときに地震が起きた場合、すぐにとるべき行動は①～③のうちどれでしょう。

津波編

Q

- ① 海からできるだけ遠い場所に避難する
- ② 海の様子を見に行く
- ③ 海よりできるだけ高い場所に避難する



正解は、この面の一番下にあります↓
目黒区防災課(☎5723-8700、FAX5723-8725)

No.18 めぐの日記

Megu's Diary



今月のおすすめスポット
日本民藝館(駒場4-3-33)



※展示品は、現在の展示内容とは異なります



めぐのプロフィール

区内に住むインテリアコーディネーター。休日に目黒のまちを訪ね歩き、おすすめスポットを日記につづっている。

駒場周辺を散歩中、日本家屋を発見。日本民藝館という美術館らしい。館内に入ってすぐのシンメトリーの階段は圧巻だった!障子を通して入る光は、陶磁器などをより美しく見せていた。

展示品の説明文は少なく、直観で見てもらうことを大切にしているそう。館内は土足禁止で、何だかすてきなうちに招かれているような気持ちになったなあ。

日本民藝館

生活の中で使われているものの中にある美しさに着目した、思想家の柳宗悦が、1936年に創設した美術館。開館は火～日曜10:00～17:00(入館は16:30まで)。入館料あり。

区内のおすすめスポットなどを日記形式で紹介する「めぐの日記」。これまで掲載した情報は、区HP(コード①)でご覧になれます。

目黒区広報課係(☎5722-9486、FAX5722-8674) ①



防犯・防災
クイズの答え

A → ③

海や海岸付近にいる際、強い揺れ、もしくは数分単位で揺れが続いた場合は津波の危険があります。津波の伝播(でんぱ)速度は非常に速く、見ただけで逃げるのでは間に合いません。警報・注意報発表の有無にかかわらず、すぐに高台などのできるだけ「高いところ」に避難しましょう。